



温家宝首相の訪日に何を見るか

環日本海経済交流センター長 藤野 文晤

温家宝首相が来日した。日中首脳会談、国会での演説、各団体の歓迎会での講演、経済閣僚会議への出席、経済界及び市民との交流など短時日に極めて多彩な活動を精力的に展開した。

温という姓にぴったりの温和な風貌、庶民的で親近感の溢れる立ち居振舞い、率直な語り口、その一挙手一投足がメディアを通じてライブで日中両国民に伝えられたことは大きな意味があった。

特に国会に於ける演説は出色であった。このなかに現胡锦涛／温家宝政権の対日政策の全てが凝縮されていると考えてよい。

先ず2000年有余の日中友好の歴史を回顧し、その友好往来は、時間の長さ、規模の大きさと影響の深さに於いて、世界文明発展の歴史に類を見ないと断じその関係の深さを表現した。同時に近代に於ける50年有余の不幸な歴史を統括し歴史の教訓を銘記しようと訴えた。あわせて日中国交正常化以来、日本政府と日本の指導者が侵略を公に認め反省と謝罪を表明して来たことを中国政府と人民は積極的に評価していると述べた。又、日本の戦後の平和を愛する国家建設の努力を評価し、中国の改革开放と近代化建設に日本政府と国民が支持と支援を行ったことを中国人民は永遠に忘れないとも発言した。このことは過去の江沢民、朱鎔基訪日ではなかったことであり、中国政府の対日重視の明確なメッセージであると受け止めるべきである。又、平和愛好国家としての日本の戦後の歩みを評価したのは中国の指導者としてはじめてではないか。

今後の日中関係の戦略的互惠関係構築に当たり以下の五原則を提起した。

- 一、相互信頼の増進と約束の履行
- 二、大局を見つめ、小異を残し大同に就く。特に東シナ海のガス田共同開発問題を解決し東シナ海を平和、友好、協力の海とする。
- 三、平等互惠、共同发展を目指す。
当面、エネルギー、環境保護、金融、ハイテク、情報通信、知的財産権の分野で協力を強化する。
- 四、未来に目を向け、交流を強化する。経済と

文化交流の強化をすすめ、特に青少年の大規模な交流を進める。

五、協議を密接にし、挑戦に立ち向う。

日中両国は世界に於ける重要な国であり、両国の在り方は世界に重要な影響を及ぼす。東アジアの平和と安定、発展のために、エネルギー、環境、気候、疾病、犯罪、大量破壊兵器の拡散防止に対応することが大切であり、日中が対話を強化する。

中国の国内問題にも触れ、現在二つの任務に直面している。一つは社会生産力の発展に専念すること、一つは社会の公平と正義を推進すると述べた。この任務を達成する為に一つは市場経済を指向する経済体制改革、もう一つは社会主義民主政治の発展を目標とする政治体制改革である。ここで政治体制改革の推進に言及したのは注目される。

最後に中国の今後の発展のあり方に就いて、中国は昔から徳を重んじ武力を重んぜず、信を講じ睦を修める伝統があると述べ、平和を愛好する国家であり、中国脅威論を払拭する覚悟を述べている。

安倍首相も積極的にホスト役を勤めた。一回り以上若い戦後生れの宰相であり、その出自と側近と称せられる人々の言動から何かと言えば右寄りの雰囲気が目立つ様だが、首相就任後真先に中国を訪問し、日中友好を語り今後の日中関係の重要性を強く印象づけた点で温家宝首相と遜色のない対応であった。政治家に最も要求される柔軟性を遺憾なく発揮したと思う。

指導者が変わればこうも変わるものかと思う。それだけ指導者の占める地位は重要なのである。

首脳相互訪問により日中関係は戦後62年にしてやっと歴史を統括し、厚い氷を砕き溶かす作業が始まったと認識する。今後の課題はお互いにお互いをどう信じるかにかかる。“信”という言葉が今後の日中関係のキーワードである。“信なくば立たず”というのが、日中二大国がやっと胸襟を開いて語り合えるという舞台に立ったという点で今回の温訪日は大成功であった。

(以上)